



高齢者支援

長田 忠広

問 介護支援ボランティア制度とは、65歳以上の方が介護施設などでボランティアをした時、活動に応じてポイントが交付され、そのポイントを利用して介護保険料や地域の商品券等と交換できる制度。これまで介護支援ボランティア制度導入を提言してきたが、どのように検討されたか伺う。

介護福祉課長 市では元気高齢者の対策の一つとして、介護予防サロンや介護予防教室を実施しています。どちらも効果をj得ていますので、今後も継続していきます。また、介護支援ボランティアについては、これからも協議会の中で本当にこの方法がいいのか、やり方についてどうかなどを、今後も継続して検討していきたいと思jいます。

問 高齢者の困りごと支援事業とは、電球が交換できないなど、日常生活のちょっとした困りごとを解決する事業。これまで高齢者の困りごと支援対策を提言してきたが、現状を伺う。

介護福祉課長 高齢者の日常生活

上の困りごと支援については、岩沼市社会福祉協議会で始めましたボランティアの取組を利用できるのではないかと考えます。

パークゴルフ場の建設を

問 平成27年9月議会で、「被災地の買い取り土地の有効活用について、介護予防の一環としてパークゴルフ場等の整備」を提言したが、進捗状況を伺う。

総務部長 パークゴルフ場の整備については、実現に向けてこれまで財源の確保に取り組んできたところですが、いまだ財源のめどが立っていない状況です。引き続き財源の確保について探っていききたいと考えます。

市長 (パークゴルフ場の) 規模を大きくすれば、多くのお金も掛かるわけですから、その辺はしっかりと精査しながら、できるだけ早く財源の確保に努めていきたいと思jいます。

◎その他の一般質問
・ 疾病予防等
・ 防災



工業団地の復興と今後

佐藤 淳一

問 東日本大震災により、どの程度の損害があったのか伺う。

商工観光課長 アンケートに回答した124社分の集計で、岩沼臨空工業団地は約208億円、二の倉工業団地は約29億円の被害がありました。実際にはさらに大きな被害があったものと思jいます。

問 津波の被害を受けた工業団地の復興状況について伺う。

商工観光課長 岩沼臨空工業団地には247社、二の倉工業団地には24社が操業しており、6割以上の事業者が震災前の水準に回復したという回答をいただいています。7、8割の水準まで回復したところを含めると、約97%ですので、おおむね震災前まで回復しているのではないかと考えます。

復興の象徴としての想い

問 津波で甚大な被害を受けたにも関わらず移転することなく岩沼に残ってくれた企業や、震災後に被災地へ進出してくれた企業が立地する工業団地は、震災復興のトップランナー岩沼の象徴の一つ

であると考えますがどうか伺う。

市民経済部長 多くの企業が引き続き活動し、雇用が維持されていることについては大変感謝してjいます。被災後、工業団地の協議会を中心に、チーム岩沼として一丸となつて対応したことが、いち早い復旧・復興、そして新たな企業の進出につながつたと考えています。まさにトップランナーの象徴の一つであると捉えています。

問 今後の企業誘致への戦略的な取組の一環として、既存工業団地の環境整備をさらに進め、岩沼の企業対応へのイメージアップを図ることも必要ではないか伺う。

市民経済部長 企業誘致では、既存の事業者に対する市の対応がとも重要であることは確かだと思jいます。そのため、ハード、ソフト両面から工業団地への環境整備が必要であると考えます。今後とも企業の安定経営を操業、環境面でバックアップし、これからの企業誘致につなげていきます。

◎その他の一般質問
・ 岩沼市民バス